

居る床 × モ

医療も人と人との「出会い」から始まる。
医療人にとって、それはもう一つの技術行である。
視線は低くありたい。バットサイドでも腰をおとそう。
なぜか?と原因を追求するのが科学。
またどこか感じるのがアート。その統合あつての医療。
まず感性をみがこう。詩をよみ、三文小説をよみ、
絵画をみまめ、映画をみ、そして恋をしよう。豊かに。
私の心の中には一匹の虫が住んでいるか? 対話。
医療はやさしさだけで成り立たない。
居る床は 迷い迷いの迷い道。マニュアルはない。
患者や家族の言葉をうのみにするな。
患者だけをみていても患者はみえない。
点検記録は力なり。テレージオグラフ。
時には患者の傍らにただ黙って待てるだけ。
病気は なおればよいというものではない。
病いの心も 月見しても 自殺する人は少くない。
慢性的病は ゆっくりなおす。おつきあいが 鍵。
大局観とともに 細部(すよつとしたこ)にこだわる。
日記録は 日常語で書こう。方言を大切に。
書も捨て 田舎へ出よう。現場に立ってあれこれ考える。
自らの心と身体を健康を大切に。ほっと息を大切さ。
あせらず そっと 生きよう。風を感じよう……。
その他 もろもろ。

2001. 12. 10

浜田 晋